

薬用植物オオブカトウキの切り花の可能性

川岡信吾

Possibility of Cut Flower on Medicinal Plant Touki, *Angelica acutiloba*.

Singo KAWAOKA

Key words : Touki, cut flower, medicinal plant.

トウキ *Angelica acutiloba*. はセリ科の多年性草本で、乾燥させた根は漢方薬として利用される^{1, 3, 4)}。栽培種はオオブカトウキ (ヤマトトウキ) とホッカイトウキがあり、奈良県では吉野郡を中心にオオブカトウキが栽培^{3, 4)}されているが、1995年の栽培面積は867a²⁾で、生産者の高齢化と価格の低迷のため減少している。その対策として、オオブカトウキの栽培拡大を図るため、切り花としての可能性を検討したところ、生薬特有の臭いはあるものの、おおむね良好な評価が得られ、稽古花としての需要があること、生薬の約2.5倍の粗収益があること等が明らかになった。

そこで、1年生苗の太さと定植年、定植2年目

株の切り花の栽培条件を検討し、2, 3の知見が得られたので報告する。

1年生苗による切り花 1995年, 1996年にそれぞれ播種し、翌春に掘り上げた苗を第1表のように分類して開花状況を調査したところ、苗の根部最大径が太くなるにしたがい開花株率は高く、花茎は長く、開花は早くなった (第1表)。

しかし、根部径が15~20mmの苗でも開花株率は75.9%、1株当たりの採花数は主茎の複散形花1本のみで、単位面積当たりの切り花本数は少なかった。また、花茎の長さは、36.7cmと短かく (第1表)、1年生苗を定植年に切り花とする方法は

第1表 複散形花の開花・花茎長に及ぼす苗質の影響

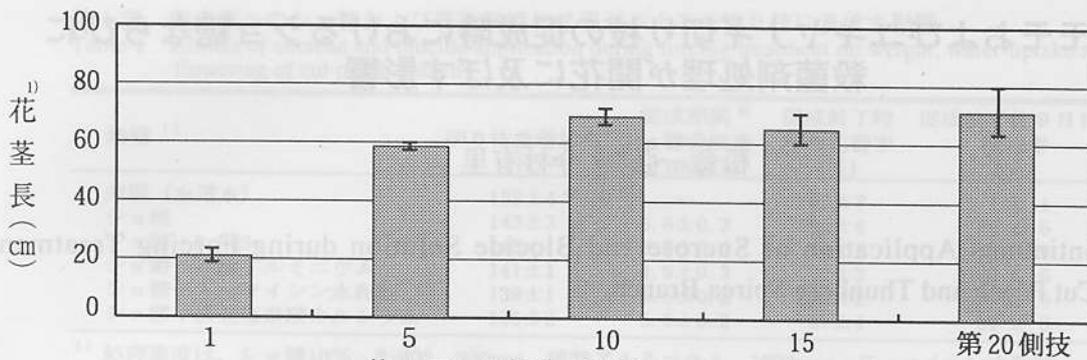
Table 1. Effect of seedling size on the ratio of flowering and length of stalk hold umbel.

調査年	苗質 (根部最大径) (mm)	開花株率 (%)	花茎長 (cm) (平均±S.E.)	開花期 ³⁾ (月/日)
'96 ¹⁾	4~6未満	0.0	—	—
	6~8未満	0.0	—	—
	8~10未満	17.6a ⁴⁾	33.2±2.3a	—
	10~12未満	48.6b	36.5±1.8a	—
'97 ²⁾	7~8未満	0.0	—	—
	8~9未満	16.7a	26.0±1.3a	6/19a
	10~15未満	48.3b	28.2±0.7a	6/13b
	15~20未満	75.9c	36.7±1.3b	6/9c

1) 1995. 4. 3播種, '96. 3. 4定植, 条間, 株間とも40cm (6. 3株/m²), '97. 7. 4調査2) 1996. 4. 27播種, '97. 3. 12定植, 条間, 株間とも40cm (6. 3株/m²), '97. 7. 22調査

3) 複散形花の小花了50~80%開花した時期

4) 異なる英文字間に5%水準の有意性あり (ダンカンの多重検定)



第1図 側枝の花茎長

Fig.1. Length of lateral flower stalk.

1) 1994. 4. 27播種, '95. 3. 14定植, '96. 9. 9調査

適さなかった。

2年生株による切り花 1994年4月27日に播種し、翌春掘り上げ定植し、その後抽台しなかった株を据え置きにし、1996年以降の生育、開花状況をみた。(第1図)

1年間育苗し、根部最大径がそれぞれ4~5, 5~10, 10~15mmであった苗を定植した後1年間養成し、肥大程度を測るため一部掘り上げたところ、それぞれ33.3, 39.9, 41.5mmに増加していた。播種後3年目の6月の開花株の主茎長は72.3cm、主茎の節数は約20で、各節から側枝の発生が見られた。側枝の花茎長が50cm以上の複散形花を持つ側枝は1株平均17本であった。また、複散形花の大きさは主茎が最も大きく、長径14.5, 短径13.9cmで、主茎の最上部から発生する側枝の複散形花が最も小さく、それぞれ11.3, 10.8cmであった。

苗密度と根部最大径の関係 1995年3月下旬から4月上旬にかけて、条間を10cm, および40cm(薬用栽培の慣行)として点播し、第2表の密度となるよう間引いた。その結果、株密度が低くなるほど根部最大径は大きくなったが、栽植密度を12.5株/m²より低くしても根頭径は太くならなかった(第2表)。

以上より、オオブカトウキの切り花生産方法としては、①1年目は密植して、根部最大径8mm未満の苗を養成する。②2年目には根部の肥大に努める。③据え置き株を用い、3年目に収穫すれば品質、採花本数ともに向上すると考えられる。今後、2年目に抽台しない株の効率的な養成法の確

第2表 栽培密度と根部最大径の関係

Table 2. Relation between planting density and diameter of rhizome.

条間 cm	栽培密度 (本/m ²)	根部最大径 (mm)
40 ¹⁾	6.3	18.1a ³⁾
	8.3	19.5a
	12.5	19.7a
10 ²⁾	65.2	14.0b
	90.1	12.8b
	137.7	10.8c

1) 1995. 3. 27点播, 株間40, 30, 20cm

(6.3, 8.3, 12.5株/m²), '95. 11. 16調査

2) 1995. 4. 3点播, '95. 12. 21調査

3) 異なる英文字間に5%水準の有意性あり(ダンカンの多重検定)

立、さらにセル成型苗システム、ポット育苗などの可能性を調べたい。

1). 厚生省薬務局監修(1992)薬用植物・栽培と品質評価 Part1. 薬事日報社. 47.
 2). 日本特殊農産物協会(1995)薬用植物関係資料. 12.
 3). 藤田早苗之助(1985)薬用植物栽培全科. 農文協. 274-277.
 4). 山岸 喬(1983)農及園. 58(1): 243-245.